

国語

(国1～国13ページ)

※数学②の問題は、本冊子の左開きのページにあります。

注意

- 1 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
- 2 この問題用紙には、次の二科目の問題が収められています。
国語(国1～国13ページ)
数学②(数1～数11ページ)「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B」
- 3 二科目の中から一科目を選択し、解答は解答用紙にマークしなさい。
解答用紙は、二科目共通です。
解答用紙にはマーク式解答欄の番号が **1** ～ **75** までありますが、使用しない解答欄も含まれています。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名・選択科目を記入しなさい。
受験番号と選択科目は、下記の「受験番号欄記入例」「選択科目欄記入例」に従って正確にマークしなさい。
- 5 試験時間は **六〇分** です。
- 6 試験開始後、問題用紙に不備(ページのおどろい・印刷不鮮明など)があったら申し出なさい。
- 7 問題の内容についての質問には、いつさい応じられません。
- 8 中途退出は認めません。試験終了後、この問題用紙は持ち帰りなさい。

受験番号欄記入例・選択科目欄記入例

受験番号欄				
Y	8	1	5	0
●	○	○	○	●
②	①	●	①	①
	②	②	②	②
	③	③	③	③
	④	④	④	④
	⑤	⑤	●	⑤
	⑥	⑥	⑥	⑥
	⑦	⑦	⑦	⑦
	●	⑧	⑧	⑧
	⑨	⑨	⑨	⑨

アルファベットと数字の位置に注意してマークしなさい

「国語」を選択した場合

選択科目欄		
●	国	語
○	数	学 ②

↑
解答する1科目に
必ずマークしなさい

マーク式解答欄記入上の注意

1. 解答は、HBの黒鉛筆を使用して丁寧にマークしなさい。
《マーク例》
良い例 ●
悪い例 ○ ⊖ ⊗ ⊙ ⊚
2. 訂正する場合は、プラスチック消しゴムで、きれいにマークを消し取りなさい。
3. 所定の記入欄以外には、何も記入してはいけません。
4. 解答用紙を汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

I 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

私も大根は、旅行が好きである。地図を開いて、^X曾遊の地を懐しみ、未知の地に憧れることもしばしばである。子供の頃から紀行文を読むことが好きで、中学一年の時、「紀行文集」というのを買ったのが最初で、つい先だって、田山花袋の「花袋行脚」というのを買って来た。家に帰って本棚を見ると、家にも「花袋行脚」があつて、二冊になったのであつた。それでいて私はなかなか旅行をしないのである。去年は奥多摩へ二晩泊りで行ったとき、今年はまだ一度も東京を離れないでいる。行ってみたい所は一ぱいありながら、^Aなので、思い立ちにくいのである。また経済下手で、旅費に苦しむのである。私の古くからのある親友は、私が毎晩酒を飲んでいたので、「君は旅行をしようと思えば、いつでも出来るんだから、酒を飲むのをやめて、旅行したまえ。酒が飲みたかったら、旅先で飲むといい」と、非常によい忠告をしてくれたことがあつた。それ以来、「旅先の酒」が私の頭にこびりついている。^{注2}提灯持ちのようになるが「旅」という雑誌を読むようにすすめてくれたのも、この友人であつた。

旅行靴一つ提げて、始終気軽に旅行している人を私は羨ましいと思う。旅行に旅行の次いでいる身分を、好いと思う。しかし、私としては、旅行ずれということは感心しない。見聞の広くなるのはいいが、何を見聞しても、大して感興を覚えない。こういうようになっては困るのである。広く恋愛をした人が、かならずしも深く恋愛を味わうとは限らない如く、広く旅行をした人が、かならずしも深く旅行を味わうとは限らない。私はめつたに旅行しない代りに旅行ずれがしていない有難さには、一寸した旅行でも、いつも生き生きとした感興を覚えることが出来るのを喜んでゐる。囁目、みな珍しいのである。大抵の場合、旅行を一つすれば、小説が一つ書けるのも、その賜物である。東海道線をしょっちゅう往復している人にとっては、静岡県の茶畑も、天竜川のあたりに飛んでいる白鷺も、伊吹山

の魁偉な姿も、格別目を楽しませないであろうが、私にとっては、いつの時でも、その情景を手帳にひかえたい気持ちにさせられるのである。私は、出来るだけ生き生きとした感興をもつて旅行ずれはしたくないと思う。

²井伏鱒二選集(筑摩書房)第四卷「円心の行状」に書かれている故太宰治君の後記を見ると、井伏氏を目して旅行上手といっている。面白い着眼である。「旅行の上手な人は、生活に於ても絶対に敗れることは無い。謂わば、花札の『降りかた』を知って居るのである。旅行に於て、旅行下手の最も閉口するのは目的地へ着くまでの乗物に於ける時間であろう。すなわちそれは、数時間、人生から『降りて』居るのである。それに耐え切れず、車中でウキスキイを呑み、それでもこらえ切れず途中下車して、自身力で動き廻らうともがくのである。けれども、所謂「旅行上手」の人は、その乗車時間を、楽しむ、とまでは言えないかも知れないが、少なくとも観念出来る。この観念出来るということは、恐ろしいという言葉をつかってもいいくらいの、たいした能力である。(略)井伏さんは旅の名人である。目立たない旅をする。旅の服装も、お粗末である。」

つい昨夜も、当の井伏氏から、先だって大阪京都へ行って来た話を聞いたが、その話を聞いてみると、なるほど「旅行上手」とうなずけた。梅尾の高山寺や宇治の黄檗山などへ行った話だったが、非常によく観て来ていて、その見方が独特で、話題も豊富であつた。^Iでは、ああは行かないだろうと思われた。同じものを見ても、百倍のものを見、感じて来たというふうであつた。旅行下手の人は、どんな勝れたものを、如何程多く見ようと、心を豊富にするすべを知らないのである。旅行上手の人は、それに反し、^I、それを旅の土産にすることが出来るのである。井伏氏達が黄檗山の庫裡の玄関を入つて、声をかけた。返事がない。ふとそこにある貼紙を見ると、声をかけて返事がない時は、もっと大きな声をかけてくれ、という意味のことが書かれてあつた。禅味たっぷりの貼紙である。語る井伏氏も、面白そうに話したが、聞く私も、面白かつた。こうい

うことを土産話にすることの出来る井伏氏は、やはり旅行上手というよりほかはないであろう。

観光旅行、講演旅行、招待旅行、みんな結構である。それを機会に旅行が恵まれ、行く先では歓待を受けるのは、悪くない。しかし、本当に心に残る旅行は、そんな公けの旅行ではなく、ひとりで、飄然として、内心の欲求にしたがつてする、太宰君のいわゆる「目立たない旅」であろう。

島崎藤村の「巡礼」は、功成り名遂げた藤村が、日本ペンクラブの代表として、夫人同伴で、南米アルゼンチンに使い、ヨーロッパを巡って帰る旅行記であるが、有り態に⁴いって、これはあまり面白くない。それよりも、姪との恋愛を清算しようとして、フランスへ脱出して行った当時の「海へ」「エトランゼ」などの旅行記の方が、ずっと面白いし、重要でもある。こういうことが起つて来るのも、名士としての旅行と旅人としての旅行との相異によるといえるのである。旅人としての「目立たぬ旅」は、若山牧水が奥利根を歩いたように、その風物にあくがれてなされる場合もあるであろうし、北原白秋が三浦三崎から小笠原へ渡つたように、心の苦悶を遣るといった場合もあるであろう。したがって楽しい旅とばかりはいえず、辛い、苦しい旅となることもあるが、それだけ深く心に残る旅となるのである。

誰でも、旅をした後と前とでは、多少とも人間が変わるようである。自分で、それが判る。これが旅の功德⁵というものである。アンドレ・ジイドは、ある書物を読んで、それを読む前と後とで、人間に影響変化せしめなような書物は、真に価値ある書物ではないかというようにいっている。旅も、これと同じことで、旅をする前と後とで、人間に影響変化せしめないような旅は、真の旅といえないかも知れない。旅に出れば、今までにない何かを受入れるのであるから、人間が変わるはずである。ゲートのイタリヤ旅行は、ゲートの一生に決定的な影響を与えた。旅の聖ともいべき芭蕉は、旅から旅を重ねることによって、絶えず人間に影響変化せしめ、

あれだけの詩人になったのだと思う。

むずかしいことはともかくとして、旅というものは、楽しいものである。楽しいから、よいものである。しかし、旅そのものよりも、旅の思い出の方が、楽しいように思える。私はいつか、「旅もいいが、旅の思い出の方がもっといいんだ」と口走つたことがある。まったく、旅の思い出は楽しい。辛かったこと、苦しかったことすら、ウ^ウされて頭に浮ぶ。というのは、心理学に、記憶樂觀説というのがあって、悲観的なことすらも、記憶においては樂觀的なものになるというのであるが、旅の記憶においては、それがことに樂觀的に思い出されるような気がするからである。そこでもまた、旅というものは、旅そのものを楽しむというより、そういう思い出を楽しむためになされるものだといえそうである。しかも、同じ楽しい思い出にしても、恋愛の思い出には、ある苦さが伴い勝ちであるが、旅の思い出には、そういう苦しさの伴わないのが気持好い。

私も相当数の旅の思い出を持っているが、新しい旅の思い出がくわわるとに自分の蓄財が一つずつふえるような気がする。私はそれらの旅の思い出を、おろそかにしないで、いつまでも大切にしている。子供達にも、旅行のあるたびに、何よりも絵葉書を買って来るようにいつつけている。それは、**II**のである。絵葉書は、それを取り出すたびに、思い出を新たにし、また薄れていた思い出を正確ならしめるのに役立つのである。旅は、しつ放しでなく、その思い出を大切にしたいものである。

(上林暁「旅行上手と旅行下手」による)

(注) 1 大根——根本。

2 提灯持ち——頼まれもしないのに自ら進んで他の宣伝に努めること。ここでは、この文章が元々は「旅」という雑誌に寄稿されたものであることに由来する。

3 囁目——自然と目に触れるもの。

問一 傍線部X～Zについて、問題文中での意味として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

1 X「曾遊」

- ① 昔、一度だけ遊びに行った
- ② 以前訪れたことのある
- ③ 親に連れて行ってもらった
- ④ 自分が生まれ育った

2 Y「魁偉な」

- ① 神秘的で厳かな
- ② 眩まよしいほど輝いている
- ③ 雄大で立派な
- ④ 威圧的で尊大な

3 Z「禅味」

- ① 何とも言えない味わい
- ② 謎めいた雰囲気
- ③ 浮世離れた趣
- ④ 重々しい調子

問二 空欄ア～ウに入る語句として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

4 ア ① 淋さびしがり屋 ② 分からず屋

③ 億劫おっくうがり屋 ④ のんびり屋

5 イ ① 余人 ② 賢者

③ 他人 ④ 隠者

6 ウ ① 隠蔽いんぺい ② 濾過ろか

③ 糊塗こと ④ 美化

問三 空欄I・IIに入るものとして最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

7 I ① なにも目にするものがなくても

② 思いがけぬものを見つけても

③ 沢山のものを見れば

④ 一寸したつまらないものを見ても

8 II ① 旅に行けない人も、行ったのと同じ喜びを味わえる

② 旅の思い出を大切にさせる手段にはかならない

③ 旅そのものを楽しむことに優るものではない

④ 旅の思い出をしまい込むための手段ではない

問四

傍線部1「旅行を一つすれば、小説が一つ書ける」とあるが、そのようにいえるのはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

9

- ① めったに旅をしない分、旅に出れば、旅先の情景はいつも新鮮なものとして目に映り、そこで味わった深い感銘は小説の素材として自分の中に蓄えられるから。
- ② 家の中に籠っていることが多い自分が旅に出れば、たいいてい小説のネタになりそうな珍しい経験をすることもであり、そこでの経験をひとつにまとめさえすれば立派な作品が生まれるから。

- ③ しょっちゅう旅行に出かける人に比べて、たまにしか旅行に行かない者が旅に出れば、どんな情景にも新鮮な感動を覚え、そこから人生の深遠な真理をつかみとることができるから。

- ④ ふだんから旅行ずれにならないように心がけさえすれば、たまに旅行に出たときは目にするものすべてが生き生きとその姿をあらわし生の実感を自覚することができるから。

問五

傍線部2「井伏鱒二」の作品として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

10

- ① 黒い雨
- ② 人間失格
- ③ 破戒
- ④ 虞美人草

問六

傍線部3「人生から『降りて』居る」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

11

- ① 他の誰かが自分より先に出世することをまったく気にかけないこと。
- ② 何もすることがない時間をむしろ楽しんでしまう余裕をもっていること。

- ③ 人生の敗者として黙してすべてを耐え忍ぶことを選び取ること。

- ④ 何もしないという無為の時間をみずから受入れるということ。

問七

傍線部4「有り態にいつて、これはあまり面白くない」とあるが、それはなぜか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 12
- ① 名士としての旅は、自分が行きたい所へ行くというよりも、旅行先の関係者によって組まれたスケジュールに則って旅をするため、その旅行記も訪問先の情景しか印象に残らないものになりがちだから。
- ② 名士としての旅とは、つねに最高のもてなしが用意されている公式行事としての意味合いが強いため、その旅行記もおのずと公的な記録としての価値しか帯びなくなるから。
- ③ 名士としての旅行は、自分が望んでのものというより、公的機関を代表しての訪問であるため、その旅行記も内面をうかがい知ることのできない味気ないものになりがちであるから。
- ④ 名士としての旅は、どうしても公的な義務を果たすことが最優先されるため、その旅行記も行く先々で一瞬目にした情景やわずかの時間に出会った人々との交歓を描いたものになりがちだから。

問八

傍線部5「旅の功德」とあるが、その「功德」はどのような点にあると考えられるか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 13
- ① いい意味でも悪い意味でも、旅というものはその人間を大きく変えるが、そのことによって真の自分とはどういった存在であるかを悟らせる点にある。
- ② 旅の意義は、自己という狭い世界の中で生きてきたこれまでの自分を一切顧みることをやめ、より広い世界の中で生きるための新たな手がかりを得られる点にある。
- ③ 旅の価値は、見知らぬ土地に出かけ未知なるものを受入れることによって、これまでとは違った、新たな自分生まれ変わることによって、体験をもたらしてくれる点にある。
- ④ 人は旅を重ねることによってその都度生まれ変わり、未知なる自分と向き合い続けることで、人は変わり続ける存在であることを身をもって知る点にある。

問九

問題文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

- 14
- ① 旅というものは上手に思い出すことができればそれでよく、極端なことを言えば、旅に出なくても思い出を温めることができさえすればよい。
- ② 旅行上手な人は、独特なものの方で旅を楽しみながら、そこから人生を豊かにする多くのことばを経験している。
- ③ 人生における旅の影響は決定的なものであり、人間が自己形成を図るうえで旅に出ることは必要不可欠なものである。
- ④ 下手に旅行しないうえに、たった一度の旅行からであっても、人はより多くのものの見方を学び、それを自分の蓄財にすることができる。

II 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

日本語をふくめた言語と人間の関係の基本について考えておきたい。

川上未映子に『ヘヴン』(二〇〇九年)という小説がある。ある種の恋物語である。しかし世にあるレイケイ^aを見事に裏切った恋物語だ。主人公は中学二年生の「僕」。斜視のため、クラスメイトのいじめの対象になっている。その僕のもとに「わたしたちは仲間です」と書かれた手紙が届く。フケツ^bな身体と薄汚れた身なりが原因で、やはりいじめの標的となつている少女が差出人であった。

ふたりのつきあいが始まった。文通もたまのデートも、だれにも知られぬよう内密に進められた。だがそこに生まれたのは傷を舐めあう日陰の恋ではなかった。交わす言葉は次第に活力をもち、ふたりのあいだにささやかな希望のようなものが芽生える。

彼女はいじめられることに逆説的な意味を読み込んでいた。「あの子たちは、……本当にね、なにも考えてないのよ。ただ誰かのあとについてなにも考えずにその真似^{まね}をして、それがいつかどういいう意味をもつことなのか、それがいつかいつかいつかのためになるのか」、わたしたちはね、そんなこと想像したこともないような人たちのね、はげぐちになつてただけなのよ」、「ねえ、でもね、これにはちゃんとした意味があるのよ。これを耐えたさきにはね、きつといつかこれを耐えなきゃたどりつけなかつたような場所やできごとが待ってるのよ」。彼女が僕に見せたいという「ヘヴン」という絵は、その場所を象徴しているのだろうか。

そのあいだにもふたりに加えられるいじめは陰惨をきわめ、僕は「人間サッカー」というゲームのボール役にされ、血塗れになるまで蹴飛ばされる。だがその後、僕は主犯のひとりに詰め寄り、論争を挑むところにまで力を蓄えていたことに気づかされる。

いじめることを趣味の問題に還元して恥じることのない相手側と、ひと

の心の痛みから言葉を起こす僕とのあいだのかみあわぬオウシユウ^cのなかに、読者は倫理の根源にある困難を読みとることになるだろう。いじめを

A (欲求の自由とその相対性)と、僕とのあいだに共通する倫理的な基盤は、まったく見つけられないからである。

しかしいじめの主犯人物は、僕とのあいだの言語的な基盤になんどの疑いも抱いてはいない。

言語というゲームは、人称詞の機能に象徴的にあらわれているように、話し手が自己中心的な世界にとどまることを許さない。対話のなかで「私は」と語りだした話し手は、話し終えたとたんに、「私は」と語りだすもうひとりの話し手の聞き役に転換し、これが順ぐりにつづけられる。この話し手と聞き手による相互性と対等性がなければ、言語コミュニケーションは成立しない。

話し手としての「私」が、聞き手に対して絶対的な立場に立つことは原理的に不可能であり、話し手は聞き手という存在の保証なしには成り立たないばかりか、聞き手である「私」によってつねに脅かされる存在でもある。

言語コミュニケーションの基盤そのものが失われないうぎり、いじめる側はつねに潜在的にいじめられる側から脅かされつづける。そしていつその関係が逆転するかもしれない。

「僕」は、彼女のように、いじめられることに**B**を見出すことはなかったが、ただ言語のこの対等性に対する信頼を失うことさえなければ、絶対的に敗北することはない。いじめる側が言葉を放棄せざるを得なくなれば、暴力的な支配は**d**カンテツ^dできても、言語主体としての根源的な敗北となるからだ。

A 現実的な問題は現実のなかで解決されなければならない。しかしこの言語という基盤は、人間を人間として存立させる根底的な基盤であるから、現実を解決する最終的な可能性もまた、そこに見出されるのである。

今度は国家レヴェルで考えてみよう。

国民の行動や思想が国家イデオロギーに合致することをもとめられる全
体主義国家では、当然、言葉の統制がおこなわれる。「不敬」な言論、「反
国家」的な言論、「反革命」的な言論、「反党」的な言論は、きびしく処罰
される。

特定の語彙や語法から反国家的な思想の総体まで、すべて処罰の対象と
なるのだが、しかし、もしほんとうに国民の心のうちまでを支配しようと
すれば、それらの思想を胚胎はいたいさせる言葉のはたらきそのものにまで、統制
の手を下す必要があっただろう。

この歴史上は存在しなかった統制を实行しようとした国家が、ある近末
来小説のなかに描きだされた。（注2） ジョージ・オーウェルの『一九八四年』
（一九四八年執筆、四九年刊行）という作品である。

この国家では、「ビッグ・ブラザー」という指導者率いる党によって国
民の生活は監視され、密告が横行している。世の中になが起きているの
か、**イ**歴史のなかでなにが起きたのか、そのすべてが情報操作され
ている。

人びとのささやかな体験や記憶も、国家が作成する公式記録によって塗
りつぶされつつあった。言語も、党公認の人工公用語「ニュースピーク」
に取って代わられようとしている。

主人公は真理省記録局に勤める役人。歴史改竄かいざんの仕事に携わるが、国家
体制に疑問と不満の気持をひそかに抱き、自宅では監視の目を逃れて日記
を付けている。在来の英語（「オールドスピーク」）で私的な文書をつくる
ことは、党にとっては犯罪的な行為であり、主人公にとっては、根源的な
抵抗であった。

ニュースピークは、党が編集する辞典にケイサイケイサイされた少数の語彙から
なり、その意味は辞書の規定をはみだしてはならず、言葉の変化も明示的

なルールにしたがっておこなわれる。

ニュースピークが完全制覇したときには、All mans are equal. と言え
ば、「すべての人間は身長、体重、或いは体力が等しい」ということを意
味し、政治的平等といった意味はなくなっているはずであった。そればか
りか、そのような意味や概念がかつて存在したことすら忘れ去られ、もは
や「政治的に平等な」といった観念を心に抱くことも不可能になっている
のであった。

つまり、ニュースピークとは、一義的に規定された記号とその操作規則
とからなる記号論理や数学に、言語をかぎりなく近づけようとする試みで
あった。**ウ**記号論理や数学は万人が認める（とされる）公理から出
発するのに対し、ニュースピークは党が一方的に作成した語彙規定と統語
規則にもとづく言語体系である。

言語の提喻ていよ的なはたらきは温存されるが（辞書に定義されたかぎりでの
種類関係）、新たな発見に導く隠喩えいよ的なはたらきは抑圧される。換喩えんよ的な
操作は構文操作そのものであるから禁ずるわけにいかないが、その操作方
法が厳格に制限される。

ほんらい辞書にある意味規定とは、現場でさまざまに使用された意味が、
概念化され一般化されたものであったが、ここでは逆に、辞書に規定され
た意味が先行し、その意味以上に現場で展開することは禁じられた。

しかし人間が関係を生きる存在であり、言語行為の場で意味を生みだし
つづける存在であるかぎり、そのような言語統制は不可能である。だから
ニュースピークは新たな言語ではなく、非言語であった。ビッグ・ブラザ
ーが完全に勝利宣言したあかつきには、その支配対象はもはや言語主体と
しての人間ではない。

3このときビッグ・ブラザーは、人間を根底的に支配することに失敗した
のである。

（井崎正敏「考えるための日本語入門 文法と思考の海へ」による）

(注) 1 川上未映子——現代日本の作家。

2 ジョージ・オーウェル——二〇世紀前半のイギリスの作家。

3 換喩的——ある事物を表現するとき、それと関係の深い別の事物で言い表す法。

*問題作成上の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問一 傍線部 a、e を漢字表記に改めた場合、それと同じ漢字を傍線部で

用いるものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

15 a 「ルイケイ」

- ① テンケイ的な日本人。
- ② ケイリヤクをめぐらす。
- ③ ギンガケイの恒星。
- ④ 昆虫のケイタイを調べる。

16 b 「フケツ」

- ① ケツゼンとした態度。
- ② カンケツに述べる。
- ③ 現場にシュウケツさせる。
- ④ 推理小説のケツサク。

17 c 「オウシユウ」

- ① シユウカクの季節を迎える。
- ② 規則をシュウチさせる。
- ③ シユウケン的な政治体制。
- ④ アルバイトのホウシユウ。

18 d 「カンテツ」

- ① 任務をカンスイする。
- ② トツカン工事を行う。
- ③ ユウカンな行為を称える。
- ④ 計画のコンカンに関わる。

19 e 「ケイサイ」

- ① フサイを返済する。
- ② ドクサイ政権を倒す。
- ③ カーナビをトウサイする。
- ④ 提出をサイソクする。

問二 空欄 A・B に入る言葉として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

20

A ① 必要悪とする心性

② 見逃す残酷さ

③ 非難する正義

④ 正当化する論理

21

B ① 特権的な意味

② 偽善的な理由

③ 客観的な根拠

④ 根源的な矛盾

問三 空欄ア～ウに入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の

中から一つ選びなさい。

22

① ア 結局

イ そもそも

ウ だから

② ア したがって

イ さらに

ウ とはいえ

③ ア しかし

イ つまり

ウ そのうえ

④ ア もちろん

イ あるいは

ウ ただし

問四 二重傍線部 X・Y について、問題文中での意味として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

23

X 「逆説的な」

① 真実とはまったく逆の

② 一般的な見解に反した

③ 論理的に正しくない

④ 真理ではあるが反道徳的な

24

Y 「象徴している」

① 特徴をよく描写している

② 抽象的に表現している

③ 全体を代表している

④ 具体的なもので表している

問五

傍線部1「僕とのあいだの言語的な基盤になんの疑いも抱いてはいない」とはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

25 ① 言語によってコミュニケーションをとっているときには、「僕」と対等な立場にいたいということに気づいていないということ。

② うわべの言葉ではなく、心の痛みから起こした「僕」の言葉にこそ、真実が含まれていることに気づいていないということ。

③ 自分がいじている「僕」と、共通の倫理的な基盤を見つめることができる信じ切っているということ。

④ いじめを趣味の問題と述べる自分の言葉が、いじめられている「僕」にも通じると信じ切っているということ。

問六

傍線部2「人工公用語『ニュースピーク』」とあるが、なぜ「党」はそれを広めようとしていると問題文では述べられているか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

26 ① 国民の生活を監視し、密告を横行させないためには、私的な文章を作成することを禁止すべきだと考えたから。

② 反国家的な思想や言論を生まないために、言葉のはたらしめそのものを統制していく必要があると考えたから。

③ 欠陥の多いオールドスピークよりも、正確かつ効率的に情報を取り取りをすることができると考えたから。

④ 言語を統制するという建前があれば、取り締まるために個人の私的な文書を手取できると考えたから。

問七

傍線部3「このときビッグ・ブラザーは、人間を根底的に支配することに失敗した」とあるが、なぜそのように言えるのか。その理由として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

27 ① たとえばビッグ・ブラザーがいったん完全に勝利しても、その後、ニュースピークの語彙規定や統語規則を変えようとする者が必ず現れるから。

② 「党」が自らの都合で作成したニュースピークでは、豊かな関係のうちに生きる人間の思想、体験、記憶などを十分に表現することができないから。

③ ニュースピークという非言語を操る主体は、もはや、関係を生き、言語行為の場で意味を生みだしつづける存在としての人間ではないから。

④ あらかじめ決められた語彙規定と統語規則だけからなる言葉をつくり上げ、それを人々に浸透させるのは、現実的に達成不可能なことだから。

問八

問題文の内容と合致するものを、次の中から一つ選びなさい。

28 ① 言語は、人と人、人と国家をつなぐコミュニケーションの基盤であり、そこから倫理が生まれ出る基盤でもある。

② 人は言語を手放さない限り、いじめや全体主義国家などからの暴力的な支配や統制に敗北することは決してない。

③ いじめや全体主義国家の最終的な目的は相手の言語を奪うことであるが、それを達成することは絶対にできない。

④ 言語は人間であることの基礎的な条件であり、支配に対するあらゆる抵抗は行動ではなく言葉で行うべきである。

III

次の文章は『大和物語』の一節である。登場人物の男性・平中から何度も言い寄られた女は、ついに平中と逢ったのだが、その翌朝以降、平中からは何の連絡もこなくなつた。以下は、この一件のその後を書いた場面である。これを読んで、後の問いに答えなさい。

その朝に文もおこせず。夜まで音もせず。心憂しと思ひあかして、またの日待てど文もおこせず。その夜した待ちけれど、朝に、つかふ人など、「いとあだにものしたまふと聞きし人を、ありありてかくあひたてまつりたまひて、みづからこそいとまもさはりたまふこともありとも、御文をだに奉りたまはぬ、心憂きこと」などこれかれいふ。心地にも思ひあたることを、人もいひければ、心憂く、くやしと、思ひて泣きけり。その夜、もしやと、思ひて待てど、また来ず。またの日も文もおこせず。すべて音もせで五六日になりぬ。この女、音のみ泣きて、物も食はず、つかふ人など、「おほかたはなおほし」。かくてのみやみたまふべき御身にもあらず。人には知らせでやみたまひて、ことわざをもしたまうてむ」といひけり。ものもいはずもりあて、つかふ人にも見えで、いと長かりける髪をかき切りて、手づから尼になりけり。つかふ人集りて泣きけれど、いふかひもなし。「いと心憂き身なれば、死なむと思ふにも死なれず。かくだになりて、行ひをだにせむ。かしがましく、かくな人々いひさわぎ」となむいひける。

かかりけるやうは、平中、そのあひけるつとめて、人おこせむと思ひけるに、つかさのかみ、にはかにもへいますとて寄りいまして、寄りふしたりけるを、おひ起して、「いままで寝たりける」とて、遣遥しに遠き所へ率ていまして、酒飲み、ののしりて、さらに返したまはず。からうじてかへるままに、亭子の帝の御ともに大井に率ておはしましぬ。そこにまたふた夜さぶらふに、いみじう酔ひにけり。夜ふけてかへりたまふに、この女の許いかむとするに、方ふたがりければ、おほかたみなたが方へ、院

の人々類していにけり。この女、いかにおほつかなくあやしと思ふらむと、恋しきに、今日だに日もと暮れなむ。いきてありさまもみづからいはむ。かつ、文をやらむと、酔ひさめて思ひけるに、人なむ来てうちたたく。「たそ」と問へば、「なほ尉の君にも聞えむ」といふ。さしのぞきて見れば、この家の女なり。胸つぶれて、「こち、来」といひて、文をとりて見れば、いと香ばしき紙に、切れたる髪をすこしかいわがねてつつみたり。いとあやしうおほえて、書いたることを見れば、

あまの川空なるものと聞きしかどわが目のまへの涙なりけりと書きたり。尼になりたるなるべしと見るに、目もくれぬ。

(注) 1 した待ち——心待ちにすること。

2 つかさのかみ——官庁の長官。

3 おひ起して——せき立てるように起こして。

4 亭子の帝——宇多天皇。第59代天皇(867〜931)。

5 大井——京の大井川。紅葉や桜の名所。

6 類して——連れだつて。

7 尉——役人。「じょう」とも読む。

8 かわがねて——輪にし束ねて。

問一 傍線部「あだにものしたまふ」とはどういう人となりを言っているか。この話の内容から、最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 29
- ① 多情多感で、対応が鋭敏である。
 - ② 誠実味が無く、浮気である。
 - ③ いつも悪い結果になるようなことをする。
 - ④ 他人に害を及ぼすおそれがある。

問二 空欄(二か所ある)に共通して入る語として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

- 30
- ① つ
 - ② ぬ
 - ③ そ
 - ④ ね

問三 傍線部X、Y、Zの意味として最も適切なものを、次の各群の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

- 31
- X「ことわざ」
- ① 他のご縁
 - ② 仕事
 - ③ 言い伝え
 - ④ 教訓

- 32
- Y「あひける」
- ① 密会した
 - ② 会話した
 - ③ 出くわした
 - ④ 結婚した

- 33
- Z「のしりて」
- ① 悪口を言って
 - ② 大騒ぎをして
 - ③ 叱りつけて
 - ④ 盛んに噂をして

問四 傍線部2「かくだになりて、行ひをだにせむ」の現代語訳として最

も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

34 ① このようになるのなら、ふるまいだけでも注意しよう。

② せめて尻にでもなつて、仏道修行だけでもしよう。

③ 死ぬことなど考えないで、品行を慎んで生きよう。

④ 長い髪は切つて、日常の仕事だけに集中しよう。

問五 傍線部3「率」と同じ活用をする種類の動詞として最も適切なもの

を、次の中から一つ選びなさい。

35 ① 入る

② 要る

③ 煎る

④ 居る

問六 傍線部4「方ふたがりければ、おほかたみなたがふ方へ」とあるが、

これは目的地に行くのにどうしたと言うのか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選びなさい。

36 ① 目的地への別の行き方をその土地の神から教えてもらって

行った。

② 別の用件があつた屋敷での用事を済ませてから、改めて目

的地に向かった。

③ 行こうとする方角は災いを受けるので、別の地点から方角

を変えて出直した。

④ 行こうとする方角は事故で道がふさがっていたので、經由

地を変更した。

問七 傍線部5「あまの川空なるものと聞きしかどわが目のまへの涙なり

けり」は、女が平中に送った歌であるが、平中はこれに対して、「世

をわぶる涙ながれて早くともあまの川にはさやはなるべき」という歌

を返している。この二つの歌についての解説として最も適切なものを、

次の中から一つ選びなさい。

37 ① 平中の歌の「ながれ」は、「流れ」と「無かれ」とを掛け、

自分は泣くことはないと言っている。

② 女の歌の「空」には空虚の意味が含まれていて、七夕伝説

の虚構性を表している。

③ どちらの歌も「あまの川」の「あま(天)」は「尼」を掛

けており、女の出家を表している。

④ 女の歌の「涙なりけり」の「けり」は、「くっていること

だ」という過去から現在に至るまでの存続の意を表している。

問八 「大和物語」とは異なる時代に成立した作品として最も適切なもの

を、次の中から一つ選びなさい。

38 ① 宇治拾遺物語

② 伊勢物語

③ 竹取物語

④ 宇津保物語

国語の問題は「」までです。

このページは余白です。